

2010年10月21日 河北新報朝刊

文化 culture

日 火 水 木

こけし創生期の謎に迫る

こけし研究家高橋五郎さん(67)は仙台市青葉区Ⅱの近年の研究成果を紹介する企画展が、同区のカメイ記念展示館で開かれている。「最古」のこけし文献と肘折こけしの発見を軸に、こけし創生期の謎に迫る内容だ。12月19日まで。

仙台の高橋さん 研究成果を紹介

イ・メ・カ
館・展・記

展示品の一つ「萬換物 家で見つかった。

扣帳(よろずひきものひ かえちよう)と表記された古文書は、約30年前に仙台市青葉区芋沢の旧格を「万延元年(1866)が弟子に与えた免許皆伝書で、こけしの寸法や価



「最古の肘折」こけしの特徴を説明する高橋さん

コレクションや「奥深い歴史感じて」 最古の文献展示

0年)に記した。この文書が見つかる前は、江戸時代の木地師のこけしに関する文献がなく、こけしが江戸時代後期に商品化されていたことを裏付ける貴重な資料となった。現時点での資料を総合して、東北にある1系統の中で作並が最古のこけし産地であることも分かった。

もう一つの発見は、4年前に村山市の旧家の解体時に出現した古いこけし。所有者の証言などから、肘折こけしの創始者柿崎藤五郎の作品と初めて確認された。

高さ26・6センチで胴が太い鳴子系の形態と、藤五郎が1887(明治20)年ごろ修行に出た遠刈田での面描きの特徴を併せ持ち、肘折こけしの源流の品といえる。

企画展は、高橋さんと亀井昭伍さん(カメイ相談役)のコレクション約80点を展示。高橋さんは「系統が分化する過程での木地師の交流など、こけしの奥深い歴史を感じてほしい」と話している。